

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和2年度 業務実績評価書

令和3年8月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~7
	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	⑤ 財務内容の改善に関する目標	
	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	⑦ その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

1 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第2期中期目標期間の5年目となった令和2年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、新型コロナウイルス感染症の影響により、アルバイト収入の減少や家計の急変等が生じ、学業及び芸術活動の継続が困難となった学生を支援するため、様々な制度を新たに創設し、学生に寄り添った柔軟な対応を行ったことである。

具体的には、大学独自の制度により、授業料の減免対象者の範囲を拡大するとともに、納期限の延長や分割納付も取り入れ、学生や学資負担者の負担軽減に配慮した。また、寄附金や教育研究基金を財源とし、全学生に対して支援金を支給するとともに、「短期貸付金制度」による一時貸付を行うなど、効果的な学生支援を推進した。

これらの制度等は、新型コロナウイルス感染症をはじめとした諸事情により経済状況が悪化した学生にとって、安心して大学生活を送るための有効な支援策となった。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 初めての試みとなったオンライン授業に対し、学内に遠隔授業支援チームを立ち上げ、学生に不利益が生じないよう対策を徹底するとともに、芸術系大学としての特徴である実習系科目についても、オンライン授業の利点を最大限活用し、教育の質の向上を図ったこと。
- ・ 国立工芸館の金沢移転を機に、新たに「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加盟することにより、同館を含む全ての国立美術館における展示を学生及び教職員が無料で鑑賞できる環境を整備し、主体的な学びを支援することとしたほか、同館との意見交換を積極的に行い、同館を活用した新たな授業を取り入れるなど、双方にとって有益な協議を進めたこと。
- ・ 柳工業デザイン研究会から当大学に寄託されていた、柳宗理の手掛けた作品や模型などの資料の寄贈に関する合意書を締結したこと。また、これらの資料をより一層有効に活用するために、市とも協議を行い、「金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）」の設置に向けた準備に着手したこと。

2 項目別評価

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 46 の小項目のうち、IV評価（年度計画を上回って実施している）が 8 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 38 項目と、全ての項目がIV又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新入生・在学生ガイダンスをはじめ、授業科目の履修等に関する各種ガイダンスをオンラインに変更して実施することにより、適切な履修指導を行ったこと。また、令和2年度から導入したオンラインでの履修登録についても、支援体制を充実させ、滞りなく実践したこと。
- ・ 芸術系大学としての特徴である実習系科目について、スケッチの書き方や漆の塗り方などをオンデマンド配信することにより、対面授業では確認が困難であった細部まで視認性を高めるとともに、見返すこともできるようにするなど、長期的視点に立ったICT活用による学習環境の充実を図ったこと。
- ・ キャリア支援室が中心となり、地元企業の経営者を招いた講演会を初めて開催し、地元企業への理解を深めるとともに、進路に対する意識を高め、県内定着率の向上を図ったこと。
- ・ 初めての試みとしてオンラインオープンキャンパスを開催することにより、全国各地の受験生や保護者等に対し、当大学の最新情報を発信する貴重な機会を得たこと。また、その際に制作した動画等を引き続きホームページに掲載することにより、訪問活動ができない予備校・高校への新たな広報活動手段として活用したこと。

② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の16の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が14項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 平成の百工比照を活用した学術研究を推進するため、公立大学としては初となる国立民族学博物館との連携協定を締結し、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、高等教育教材の実用化を目的とする研究に着手したこと。

③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の18の小項目全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 当大学と連携協定を締結しているアントワープ王立美術アカデミー（ベルギー）主催のオンラインを活用した意見交換会に参加し、コロナ禍においても世界の他大学との交流を深め、積極的な情報交換を行ったこと。
- ・ 海外等で活躍するアーティストを招聘し、金沢の文化的景観を形成し大切な歴史遺産である「金澤町家」を活用した新たな社会連携事業に着手したこと。

④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 学生に向けた各種掲示及び事務連絡等をウェブ上で閲覧できる仕組み（KANABI-Portal）を整備するとともに、令和2年度の新入生から国際化にも対応した学生証に刷新するなど、情報提供の迅速化及び利便性の向上に努めたこと。
- ・ 一般選抜試験において、インターネット出願システムを導入し、志願者情報の入力及び印刷並びに郵送等にかかる作業を削減することにより、事務の効率化を図ったこと。

⑤ 財務内容の改善に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の11の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となる事業もあった中、新たにオンライン会議等を活用して協議を進めることにより、積極的に外部資金の獲得に努めた結果、産学連携事業を8件、地域連携事業を8件受託し、27,049千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の16,000千円を大幅に上回る収入を得たこと。また、新技術を踏まえて未来を志向した依頼や新しい生活様式を前向きに捉えるための研究などの受託案件に対して、当大学ならではの機能性を重視した新しいデザインの提言を行ったこと。

⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の4の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が3項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパス移転プロモーション事業の一環として、視覚デザイン専攻の卒業生である井上涼氏のトークショーを開催し、当大学への関心度を高めるとともに、新キャンパス移転に向けた機運の醸成を図ったこと。また、新キャンパスへの移転に向けた広報活動の強化を目的に、当大学の客員教授で映画監督の米林宏昌氏と学生が共同して制作した短編アニメーションを公開するなど、市民や受験生などに向けた積極的な情報発信に取り組んだこと。

⑦ その他業務運営に関する重要目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパスの基本コンセプトである「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」の実現に向けて、「共通工房」や「アートコモンズ」などのさらなる機能強化及び利便性向上を図るため、大学の意見を実施設計に反映させたこと。
- ・ 研究費の不正使用防止・禁止に対する教員の意識付けを強化するため、研究不正防止推進会議において新たに中間審査の導入を決定したこと。また、人を対象とする研究を行う際に遵守すべき基本的倫理事項を示すとともに、その倫理的遂行を確保するため、「公立大学法人金沢美術工芸大学人を対象とする研究に関する倫理審査規程」を定め、運用を開始したこと。